

TS（トータル・サティスファクション）を目指して③⑦

思い通りにならない時に、思い通りになること

校長室担当より

前々回、サッカーのレフェリーへのクレームのお話をしましたが、これもつい先日、自宅で J1 リーグの実況放送を楽しんでいた時のお話です。川崎フロンターレの大島僚太選手が、サンフレッチェ広島 of 佐々木翔選手へやや後方から懸命に足を延ばし、ぎりぎりの態勢でボールを奪おうとしました。佐々木選手は倒れこみ、判定はファウル。今回のこの場面は、サンフレッチェファンの私でも「ファウル？」と思いました。皆さんも目にされることがあると思いますが、こういうシーンでは、ファウルをした選手が主審に向けて大きく手を広げ、「なんでファウル？」とアピールするシーンがなんと多いことか。しかし今回は少し異なりました。大島選手は、「ダメだったか・・・」と言わんばかりにぴょんと一回飛び上がり、判定を下したレフェリーに不満な表情を全く見せることなく、すぐに佐々木選手を抱き起こし、次のプレーに切り替えていきました。この時に実況をされていた方がその大島選手の姿を見て、このように言うておられたことが印象に残っています。「大島選手はいつもこうして主審と向き合うんじゃなくて、自分と向き合うんですね。・・・主審と戦っても仕方ないですからね。」

J リーガーや多くの観客の前でプレーする選手は、ものすごい熱気の大勢のサポーターの期待と真剣勝負のプレッシャーを受けながらプレーします。そんな中で、サッカーですから当然足でプレーをし、非常に不確実な状況で思い通りにならないことやミスは必ず起こります。そこで自分に向き合うのが苦手な選手は、いつも愚痴や文句を言います。自分のことは顧みずに、周りのせいになります。極端な話ですが、芝に足をとられてこけてしまった時にさえ、芝のせいにする選手もいます。皆、同じ芝という条件で戦っているにも関わらず。私は、ミスが起こった状況で自分と向き合えるか、つまり自分の思考をいかにうまくコントロールできるかが一流選手のメンタルの強さが現れる部分だと思っています。

私たち大人も、子供たちの前では「お手本」となります。教員ともなれば、なおさら高い期待を受けて業務を行います。つまり子どもたちのお手本となるためには、J リーガー同様我々自身が人間として一流を目指さなければならないと思います。人間として本当に大切なことは自分

の気持ち、自分と向き合うこと。何かが思い通りにならない苦しいことが起きたときに人のせいにしたり、言い訳をしたりするのではなく、自分の事として向き合えるかどうかです。

私の尊敬する福島正伸さんは、このような言葉でいつも私を支えてくださっています。

「思い通りにならない状況でも、何を考えるか、どんな言葉を使うか、どんな表情をするかは思い通りになる。思い通りになることはたくさんある。」

そこが自分と向き合う機会であり、人間力が試されるタイミングなのだと思います。ネガティブな感情の揺らぎを感じる場合や自分と向き合わなければならない時に、私はこの言葉を自分に言い聞かせています。何度も繰り返しますが、教職員に限らず大人は子どもたちのお手本です。子どもたちのお手本となる大人が集まる学校を創りましょう、一緒に。(令和5年7月18日)